

## 第272回鳥取県内水面漁場管理委員会

- 1 日 時 平成30年3月26日(月) 午前10時30分から
- 2 場 所 ホテルセントパレス倉吉ウインザーサウス(2階)
- 3 出席者 委員：安藤会長、寺崎委員、絹見委員、西本委員、川原委員、竹内委員、水谷委員  
事務局：平野事務局長、石原事務局次長、高橋書記  
鳥取県：水産課 丹下係長  
鳥取県栽培漁業センター：氏所長
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事
- (1) コイヘルペスウイルス病の蔓延防止に係る委員会指示について(協議)
  - (2) 第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について(協議)

〈議事経過及び結果について〉

事務局長による開会の宣言、会長による挨拶の後、会長が議事録署名人として寺崎委員、竹内委員を指名した後、議事に入った。

### 6 議事

- (1) コイヘルペスウイルス病の蔓延防止に係る委員会指示について(協議事項)  
〔原案に同意する旨が決議された〕

事務局が資料1に基づき説明した。

〔安藤会長〕

資料3ページ目の市町村からの回答で、鳥取市から意見があるが、このような対応をするのは、水産課から市町村に示すのか。それとも質問があったときに答えるのか。

〔丹下係長〕

市町村に、一般の人が尋ねてくることがあると思う。市町村が答えられなかったら、水産課に聞いてくると思う。

〔安藤会長〕

範囲を全県に指定したという方向性は、ある程度数年間は継続するという方向性か。

〔平野事務局長〕

一度全県指定した場合、範囲の縮小は考えられない。コイヘルペスが特定疾病から外れて、委員会指示の必要がなくなる限り続けていく。

[安藤会長]

了解した。案のとおり指示をするということによろしいか。

[委員]

はい。

(2) 第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について（協議事項）

[原案に同意する旨が決議された]

資料2に基づき事務局が説明した。

[安藤会長]

この増殖目標量は、漁協から出ている目標量か。

[高橋書記]

そうだ。

[安藤会長]

例えば天神川では、アユの天然遡上の汲み上げ、汲み下ろしはしているのか。

[水谷委員]

天神川では、汲み上げはしていない。

[安藤会長]

そうか。

[水谷委員]

特に去年、大水が出たので、卵を採ることが出来なかった。ごち網で獲ることが出来なくて、去年も一昨年も遡上量が少なかった。汲み上げをしているのは日野川漁協くらい。

[安藤会長]

柵の中に入っている稚アユを放すのか。

[竹内委員]

右岸側の水中に、コンクリートを設置しており、遡上してきたアユが入るので、そのアユを獲る。タモですくってバケツに入れる。4年前までは汲み上げするのが嫌になる程遡上していた。

3年ぐらい前から、日野川に遡上するアユが少なくなってきた。最初に獲れたアユは、漁協に持ち帰り、養殖場で大きくして卵を絞って養殖する。以前は、川から下ってくるアユを獲って産卵させていたが、冷水病を持っているため、現在では最初に遡上した大きなアユを必要量持ち帰り、採卵し、養殖している。

[寺崎委員]

千代川も計画はしたが、アユが遡上しないので、結局中止になった。

[安藤会長]

どこで予定していたのか。

[寺崎委員]

円通寺橋の堰堤の下流側で予定していた。それ以外にも、アユを獲る予定だったが、冷水病やアユが獲れないという理由があり、中止にした。栽培漁業協会の成魚から採卵し、放流した。今年、智頭、佐治、用瀬には湖産のアユは放流せず、岐阜産を放流する予定だ。病気を持ってないアユをしばらくは放流しようと計画している。

[安藤会長]

上流域に放流しないというのは水温上の問題か。

[寺崎委員]

冷水病を持っているアユは今まで智頭等に放流していたが、上流の方から下流の方まで蔓延してしまうので、若桜には放流するという事になっていた。

[平野事務局長]

岐阜はどこからのアユを放流するのか。

[寺崎委員]

岐阜県のセンターからのアユだ。

[水谷委員]

岐阜県のセンターは、長良川の周辺にある。

[水谷委員]

岐阜であれば、長良川が一番大きいので、そこから水ごと持ってくる。

〔寺崎委員〕

先日、岐阜県に見学に行ったところ、冷水病対策も万全であり、安心したアユが放流できるので、今年から放流してみる。

〔安藤会長〕

今年のアユの遡上の様子はどうか。

〔竹内委員〕

今年は、まだ見ていない。

〔安藤会長〕

まだないか。

〔竹内委員〕

寒い時期は、アユは遡上しない。暖かい時期になれば遡上するが、まだ見ていない。今日の日中にでも気温が上がれば、遡上があるかもしれない。

〔安藤会長〕

沿岸河口付近で遡上する準備をしているか。

〔竹内委員〕

そうだ。

〔水谷委員〕

行き来している。

〔竹内委員〕

そうであればいいが。

〔水谷委員〕

今年は暖くなるのが遅かった。遡上をする時期に冷たい水が出ているので、河口付近も水温が低くなっている。アユが河口まで近づいて来ても、冷たい水を嫌がって離れてしまうこともある。

〔竹内委員〕

産卵場整備をした後に、大雨が降って川が荒れた。荒れてしまうと、手作業ではどうしようも出来なくなる。重機で川を作り直したことがある。

〔水谷委員〕

全ての河川が、一番肝心なときに荒れてしまっている。

〔竹内委員〕

昔は、大水が出るのは大体5、6月だった。かえって、アユが分散してよかったのだが。秋には、大水は出なかったので、川は安定した状態だったのだが、最近では、急に雨が降って、川が大荒れする。

〔水谷委員〕

下流部だけではなくて、上流部も川底が全部埋まっている。

〔竹内委員〕

一昨年あたりから、災害復旧の護岸工事をしているが、昨年まで継続的にして、何とか格好がついた。工事に当たって、ブロックでコンクリートで舗装するのは仕方ないが、その際には必ず大きな石を入れるよう頼んでいる。大きな石を選んで並べてもらうが、建設会社と顔見知りになったので良い具合にしてくれている。

〔安藤会長〕

それは県の土木か。

〔竹内委員〕

県土。

〔安藤会長〕

漁協から要望を言えば、工法をある程度工夫してもらえるのか。

〔竹内委員〕

それはない。現場で、工事の担当者に、護岸側に大きな石を並べて、メリハリのついた川にするように言う。

〔丹下係長〕

毎月、河川毎に、漁協と工事担当者との間で協議がされている。そこで要望を出すということか。

〔安藤会長〕

生物に優しい川作りのような話をしているのか。

[竹内委員]

優しいというよりも、魚が獲れるような川にしないといけない。

[安藤会長]

資料については、溪流魚の放流量は、イワナ、ヤマメ、アマゴ、ニジマスを含算と書いてあるが、アマゴの放流量は控えているのか。

[寺崎委員]

アマゴは少ない、ヤマメが多い。

[竹内委員]

日野川もヤマメが多い。ただ、放流はしているが、交尾するとアマゴになる。

[丹下係長]

全部アマゴになる。

[竹内委員]

本当のアマゴには、きれいなルビー色の斑点がある。

[安藤会長]

側線上にピンク色の点が出てくる。

[竹内委員]

本物のヤマメはとても少ない。

[平野事務局長]

資料を見落としていたが、ニジマスは産業管理外来種であり、今後は水産庁の指針に基づいて、放流は行わないことになっている。資料の増殖目標量のニジマスは、削除しないといけない。資料の間違いだけでいいか。

[高橋書記]

はい。

[平野事務局長]

マス釣り大会をするときにも、一般河川の中でのマス釣り大会は原則はやめるよう指導している。

[水谷委員]

それはとても難しい。河川で出来ないなら、池を作って行うしかなくなる。

[平野事務局長]

国府のマス釣り大会では、昨年11月の水産庁の指針が出た時点で、既に翌年分のニジマスが発注済みであったため、これまで以上に網等で逃げないようにすることで、ニジマスで行うことを認めたが、翌年以降は、ニジマスを他の魚に変えるよう指導した。

[水谷委員]

例えば、つかみ取り大会も、最終的には川に張った網を外すので、逃げてしまうが。

[平野事務局長]

ニジマスは他の魚種に変えるように指導している。

[安藤会長]

ヤマメにすると値段が高くなるのか。

[寺崎委員]

ニジマスは値段が安くて、大きい。

[水谷委員]

ニジマスのつかみ取りが出来なくなる。

[平野事務局長]

どうしても他魚種に変更できない場合は、完全に逃げないように網を張って、一匹も逃がさないようにしてもらおう。

[水谷委員]

いや、無理だ。

[平野事務局長]

そう言うしかない。

[水谷委員]

天神川には、40センチ以上のニジマスがいるが、常に交配しているので根絶することは無理だと思う。

[安藤会長]

今後はニジマスの放流はしないということか。

[平野事務局長]

そうだ。

[安藤会長]

イベントも使用しない。

[平野事務局長]

イベントで使用する際は、一切逃げない管理をするか、もしくは、他魚種に変更してもらう。現在は厳しい罰則はないが、そういう指導をしている。

[安藤会長]

その他何かあるか。

[水谷委員]

先日、ある人から、20年程前に体表に異常があるヤマメを釣ったと聞いた。普通に見ても分からないが、小さな水膨れが付いていたようだ。その方は以前に、兵庫県温泉町の春来川に行って釣りをして、ドロバエを釣ったら、ランチュウみたいに表皮がぼこぼこだったらしい。ヤマメもぼこぼこになっていたようだ。甲川の羽田井から下流で釣りをして、ヤマメがぼこぼこになっていたようだ。翌年に行くと、羽田井の集落の中まで、その次には山王橋のところまで出ていたようだ。

[絹見委員]

そのぼこぼこは透明か。

[水谷委員]

普通の人が見たら分からないが、ひどくなると、ランチュウみたいにぼこぼこに出ているらしい。その方が見たのはヤマメ、アマゴ、ドロバエ、ハスに、こぶが出ているのも何か所か見たようだ。実物を見てないので分からないが、日野川や千代川ではどうか。

[竹内委員]

聞いたことない。今年も何匹か釣ったが、見てもないし、聞いてもいない。

[安藤会長]

もし、現物が届けられたらセンターで見てもらえるか。



[氏栽培漁業センター所長]

はい。

[安藤会長]

今までに報告や事例というものはあるか。

[氏栽培漁業センター所長]

私は、昨年4月から来たばかりだが、そのような話はなかった。

[丹下係長]

私も見たことない。

[水谷委員]

とにかく体が、ぶによぶによとランチュウみたいにこぶだらけに変形していたようだ。

[氏栽培漁業センター所長]

今年からか。

[水谷委員]

20年前から。

[平野事務局長]

今後、現物を見つけたらセンターへ持ち込んでもらってほしい。現物を見ないことには分からない。聞いたことがないので。

[水谷委員]

その方に現物を釣ってきてもらおう。

[安藤会長]

告示内容については、原案通り告示してよろしいか。

[委員]

はい。

[安藤会長]

ニジマスという単語を削除して、告示をするように。本日の議事は以上である。事務局から何かあるか。

〔平野事務局長〕

本日の委員会は、事前の予定では、漁場計画の諮問、公聴会の開催について議題に上げていたが、知事決裁を得ることが出来ず、本日の委員会に間に合わなくて、大変申し訳ない。知事の決裁日以降にこの諮問を行うように日程調整をする。

〔安藤会長〕

今後の予定については、再度連絡をいただくということで了解した。事務局に返す。

## 7 閉会

〔平野事務局長〕

以上で委員会を閉会する。